（十四日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日 第一 第三日曜
定價 一ヶ月六十錢 郵稅 部二錢 十五錢
廣告料 發行六十錢 指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 鹽沼 ...
福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
電話五大四番

夢に住む人々□□□

平 四 蝸牛生

文を作るより困を作れ、詩を作るより屁を放れと言ふが、作るに困は無く、芋食ふに錢の無い昨今屁も放れないから文と自ら名を付けて口から出放題、人も見境へなく、書き肉そうと言ふのだから荒ましいと言ふより吾れ乍ら物哀を感んじる。

最近、猫も杓子も共鳴て流行り出した時代的産物に經濟思想問題と言ふ奴がある。別段今日此頃出來た産物でなく、語れば古い事なんだが近頃に成つて發見された太陽の黑點と密接な關係を有してゐると言ふ事か、某氣象學博士が發表したから、農産物的体質の人間に影響が有るらしい。でこの物も産地に依つて色異ふので有りまして、現在我が國へ賣り度がつて居る多少の輸入を見ました者は米國製、伊太利製と露西亞産の三種に大体鑑定する事が出來く、で品質はと言ふと製造法方に依つてマルクス主義と無政府主義の二要素に別れる。所がこの前者たるや丸くすると言へながら兎角世間を三角にして困る。

世に言ふ此れが三角主義と言ふ奴である。所が後者に至つては矛盾も甚しい。和洋式に譯すると安全で無い主義と言ふのだから危險至極である。で此の稿では此の無安全主義を少し話して見度いと思ふ。

此の危險主義をクロポトキンに言はしむると理想主義と稱する想である。一若し人類が一度び其の相互關係を自然的基礎（甚だ崇高にして且つ甚だ單純なる原則即ち相互扶助）の上に置くときは人類は思ひも及ばぬ程の完全と幸福の生活を得るに相異ない」と赤い鬚の下からほざいたが、彼等は人間が夢を見る間は吾れ等主義も亡びないと囀いて居る。所が丸くなと稱する例の三角主義は吾れこそは『科學的社會主義』なりと顏みもしないのに看板を上げて、彼の崇高な主義に對して絶わず嘲罵する事、濱口さんに對する犬養さんの觀が有る。所が泥棒も三分の理が有る如く、斯の崇高屋さんは此れ對して反撥をする。『生きた人間は意志と理想を欲する、價値世界を望む彼の機案的人間共は其の內鄙干、ちまうさ」何程上手事を言つたもんだ。こうして彼等は至る所に爭つて來た、マルクスが一勞働 價値は勞働者の生活に必要なる勞働時間によりて定まる」なんて確い事を言ふかと思ふと、一方に一勞働も一つの愉快なる遊戯」とやらかして居る。一事が萬事この筆法で彼等は夢の世界を彷徨うて居る。自分の思ふ通りに成らないのが、社會秩序の缺陥の如考へて居るのだから我儘なあんぼより手が付けられない。愉快なる遊戯だと言ふかし働くかと思ふと少しも働らかない。そうして「吾が主義宣傳の爲め勞働も樂しむ事も得ず殘念である」こゝで言ふんだから開いた口が閉がらない。實際、彼等の實行化は出來得ない主義は宣傳でもして居るより方法は無いだらう。所で其の宣傳方法が又振つて居る。『吾等の社會には人爲的强制法は存在しなくなる。』かし其の成立迄の宣傳方法として、テロリズム――暴力を採用する。目的は平段を辯解する」と言ふ。その淡々として限りのない圖々しさには根疲れを感んじる。要するに彼等は夢の實現を計つて居る、である。幻に見た他人から金を貰つた事を、現實に覺めてから與ぬからと言つて暴力に依つて强奪して、それを以つて自然的、自由協會」と信んじて居るんだから世話が無い。そうして其の暴力の效果は反逆心の喚起と無政府主義に對する世人の注意を受ける。注意はやがて研究となり、研究は正しき認識を生む、そうして民衆の目に付かざる眞理を、民衆に知らしむる。と。彼等の夢の古き事よ。疲勞れちまうそうした夢幻主義者が日本にも發生して來た。そうして警察費を增大せしむるそうして鐵窓から無情の星を怨む。幸ひにして冷たき獄舍の風が彼等の夢を醒せ。父母よ、故鄉よ……懐を開いて膝へ、膝へ。乳房に。彼等の夢を醒せ。

四、一二、六時

昭和醫者漫誅

北目町 阿佐川晴雄

專門の教授から臨床講義を聽いて喜んでゐる頃の醫科大學や醫學の學生は罪がなくつて可愛いゝ白い手術着を二の腕迄捲くつて若い看護婦に捧げさせた洗滌器の桃色の昇汞水で手を洗ふことが矢鱈に嬉しがつたり聽診器のゴム管を手繰れる程引つ張り合つて操いだりするにとよつて人生が明るくなる程の喜悅感を味はふ。みんなこの頃のことである。

處が愈々病院に赴任して々部長の指導を仰ぎ乍ら一人前の醫者としての待遇を受けるやうなると猛烈に研究心を起して人も三、殺せば眼玉も潰す。金を取つて研究の材料を得るのだからこれ程狡猾なことはいやうだが、それでも吾々は彼等のひたむきなるこの研究心をこよなく尊いものとしてこれらの隱れたる罪惡を默許してゐる。まあそれまではいゝ

も言ふことはない。あつても見逃せる。が醫者が古くなると全く手のつけられないものが出來上つて了ふ。度胸ばかり甕落着いて事業を起して見たくなつたり、病院の窓から縣會議事堂建物を戀しがつたり、たまに眞面目な醫者だと思つてみれどミイラみたいに干からびてゐて風邪や胃病をを誤診したり、さうかと思ふと競馬と野球通になり澄ゝして晴天の日には何時でも留守。

たまにしんみりした醫者などゝ買被ると、變に猥談好きで檢バイ以外の診察は木で鼻をかむやうに素つ氣なかつたり、等々、實に仕末にたへない。

そしてかうした好ましくない者を背負つてゐるのはどういふものか一町に一人一村に一人ないといふ醫者と藥に飢てゐる地方の數の中に多い。積極的な惡太郎のそれぢやないが、ほんとに弱者虐めだ。右條項參照の上いづれの一項にか該當してゐると思つたら今からでも遲くない早速改めるがいゝ。

明日の吉凶　四月十五日（新曆）　三月十七日（舊曆）

▲一白の人 見込違ひある日緊縮方針を採るが安全なり▲二黑の人 一小口舌も大爭論となり易內外共は注意▲三碧の人 投機的の事は手を出さず時は大失敗を招く日▲四綠の人 相談等には兎角口舌の伴ひ乘り易き日注意▲五黃の人 運勢壯んに如く見えても福の授からぬ日▲六白の人 事大小となく密かに心を配して進むべし▲七赤の人 氣壯んにして思はざる幸福も入來るべし▲八白の人 平凡に終り易き日急功を求むる時は却つて凶▲九紫の人 樂々と進展し行く日開店起業入學何れも吉

芳醇無比
白馬の雪
松本德一吟醸
平電話七五二

講談 幕末奇傑 高山彥九郎

(111) 中西洋々作 布施長峯畫

骨肉の離反（五）

『えゝい、とめるでない。そこ放せ」

良翁は怒りに辭をわなゝかせ乍ら云ひました

『そのような、兄弟の情愛も知らぬ奴は、放つて置いてはいつまでたつても性根が直らぬのぢや、わしが行つてよく云ひきかしてやる、そこ放せ」

『いゝえ、それはなりませぬ。祖父さま」

彥九郎は、きつぱりとそれをさへぎりました

『如何になんでも兄上は當家の戶主でござります。それに挨拶するのは弟のつとめとして當然のことこれから私がいつて御挨拶申し上げて參りまする故、しばらく此處でお待ちなされて下さりませ」

彥九郎はかういつてやと祖父をなだめ、叔父をも殘してひとり隱居所から母屋へ渡りました

『御免下さりませ」

障子の外に手をついて案內を求めました。

『はい』

と、兄嫁お菊の聲

『彥九郎でムいますが、兄上に御面會願はれまいか」

『お丶、彥九郎か」

わざとらしいなつかさの見える聲で傳藏は聲をかけました

『遠慮することはないぞ、ずうつと入つたがよひ」

『はひ、ではごめん下さひませ」

障子をあけて中に入ると田舍にはこれはまた不似合な長火鉢をはさんで、兄夫婦のさし向ひ。

『兄上、お久しうござります」

『お丶久し振りぢやつた喃」

濟ましたもので傳藏は應揚な實は傲岸な態度で答へました

『殊に、拙者留守中にはお芽出度ひ式がムひましたさうで存せぬこと丶申し乍らお喜び申し上げらのも遲れ何とも申し譯ござりませぬ平にお許し下さりませ」

『いや、別にさう改まつての程のことでもなひが喃これが妻のお菊ぢや」

『は、左樣でムりますか」

彥九郎はもう一度丁寧に手をつひて

『姉上には、先刻もちとお目にかゝりましたが、まだ改まつて御あひさつを申し上げませんでした。拙者彥九郎正之、何卒よろしくお願ひいたしまする」

『おや、大變固くるしいんでムりますね」

流石にお菊も幾分か照れて、茶化するように殊更にはすつ葉な言葉で答へました。

『妾はそんなむづかしい御あひさつは知りませんが傳藏の女房のお菊と申しますどうぞよろしく」

『………』

彥九郎はあまりに人を喰つたその言葉に思はずかつとしましたが、いや〳〵自ら胸を撫で下してやつと心をしづめました

それが、長途の旅を了へ歸つた彥九郎に對する歡迎のそれでした。畏くも高辻卿のおん前にまで侍り中井竹山、皆川淇園 菅茶山等一派の學者等と交つて來彥九郎に對するそれが唯の禮でした。しかし彥九郎はつとめて高くならうとする自己の頭を自ら抑へつゝました。さうすることが少しでも兄との確執をゆるめるに便だつたからです。

『で、とに角實兄はそれからのちの月日を彥九郎と同じ家にもつことになりました。勿論、傳藏の卑しい心から來る反對もありましたが長藏や祖父の言葉にいやいや乍ら傳藏も承諾したのでありました

夜間診察
胃腸　內科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒　淋病 婦人病 皮膚病 專門 外科部
松村胃腸科醫院
（平南町電話一〇七番）

廣告

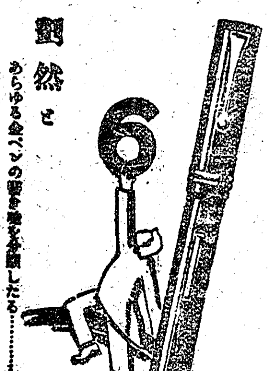
平町田町
高久病院
電話五一三番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を廉く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書頂けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一一四番

國産萬年筆の權威　五年間保險
斷然と
あらゆる金ペンの覇を壓倒したる……
パイロツト高級萬年筆
¥4.00以上
並木製作所



其何レカハ必ズ何人ニモ的合スル製作上合理適ノ逸品ヲ推奨ス
◎學生用細字向 O型二、〇〇 T型二、五〇 以上各種
御入學御進級ノ御祝トシテハ必ズ永久ニ喜バレル
パイロツト高級萬年筆 大特約店
圖書雜誌學用品エハガキ
平町字研町（公園前）
佐々木商店
電話二三三番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

御裁縫用具と手藝材料はハシモトヤへ
コンナニ安イノカ、ト驚ク程ノ御値段デ良イ品ガ澤山揃ヘマシタ
各女學校御用達
ハシモトヤ糸店
平町田町

女子店員入用（通勤）
十四五才ノ方手藝教授ス（午後五時以後來談）

內科 外科 整形外科 醫學博士 藤本順
產科 婦人科 院長 木村寅次郎
平町新川町 電話一六四番
木村病院

賣電話 貸電話あり
御入用の電話は買入ます
其他御金融も御相談に應じます
平町三丁目
文福堂書店
中世古清孝

初夏サロンの新裝
四月十日ヨリ
樽詰生ビール並にタンク入ソーダ水の用意が出來ました
ソーダファンテン設備完成
カップ一杯十五錢
ジョッキ一杯五十錢
ドーゾ御散歩がてら御來店を……
美味で評判のきもちよいサロン
平町田町 電話三五二番

三春の行樂麗らかな裝ひに!!!
御用命は何卒三井へ
京御召 錦紗小紋 羽二重帶側
本セル 銘仙 着尺モスリン
時節品豊富取揃へて御座います
三井呉服店

あす開かれる 消防組頭大會 盛り澤山な協議の諸事項

平町第三小學校に於て十五日開催される縣下第十四回消防組頭大會の指示、注意、協議、諮問並に各組より提出された建議事項は左の如くである

指示事項

一、消防精神の擴充に關する件
二、火防思想普及徹底に關する件
三、總合準備に關する件
四、災害現場に於ける活動の件
五、水利の完備に關する件

注意事項

一、組員死傷その他救濟事實報告の件
二、會議事項傳達並實行に關する件

協議事項

一、財團法人本縣消防協會寄附行爲制定に關する件

諮問事項

一、一道六縣消防懇談會建議事項に關する件

建議事項

一、御親閲に賜はりし消防組に對し馬簾た紀念章を附與せらるゝ樣請願の件(提出二本松協會)
二、消防講習會開催の件(同上)
三、四點信號制定に關する件(同本宮)
四、消防用水係に赤色提灯携帯方の件(同白河)
五、感狀三枚に付金簾一條に替へるの件(同川西)
六、消防組細則第八條中改正の件(同石川)
七、消防顧問並に消防器門札掲出方の件(同南相)
八、消防徽章制定の件(同河沼)
九、愛林思想普及に關する件(同上)
十、衛生材料配給申請の件(同上)
十一、火防デー當日童兒に諸話の件(同安積)
十二、消防精神涵養に關する件(同上)
十三、消防幹部に對し電氣學講習に關する件(同三春)
十四、貯水設置に對し縣補助交附の件(同保原)
十五、少年消防隊組織に關する件(同石城)
十六、消防組に關する行政諸法規を編纂し名希望者に頒布するの件(同上)
十七、消防諸法規を一括し縣協會より發行し各幹部に頒布する件(同双葉)
十八、殉職消防組員の建碑の件(同上)
十九、縣の消防表彰の改訂の件(同上)
二十、火災豫防獎勵金付規程改正の件(同信夫)
二十一、動力ポンプ設備費補助規定に關する件(同上)
二十二、興業場內火氣取締に關する件
二十三、自動車用瓦斯倫置場火氣取締に關する件(同上)
二十四、縣消防協會規則改正の件(同逢南)
二十五、山林火災に於ける信號に關する件(同上)
二十六、消防組規則根本的改正方促進の件(同猪苗代)
二十七、消防組則第五條第一號中「年齡滿十八歳未滿」を十六歳未滿と改正の件(同上)
二十八、少年消防團組織に關する件(同南會)
二十九、消防組員に對する汽車汽船等の本年賃割引に關する件(同大沼)
三十、縣消防協會共濟規程一部改正の件(同耶麻)
三十一、消防所轄を定むべきの件(同中村)
三十二、縣下消防組頭大會に關する經費節約の件(同會津)
三十三、消防組頭代理の名稱を副組頭と改正の件(同會津)
三十四、消防組則中部改正の件(同浪江)
三十五、縣消防協會基本金運用に關する件(同磐世橋)

平第三校開校式 きのう二百名を招き 請負人を表彰

平町第三小學校開校祝賀式は十三日午前十一時から同校講堂に於て行はれたが出席者知事代理井上縣屬、伏見平町長、荒井平署長、各町議、官公衙長、學校長、その他來賓百五十名並に同校尋五六年兒童二百餘名で定刻遠藤助役が擧式の辭を述べ次いで伏見平町長の式辭並に遠藤助役の工事報告あつて功勞者表彰に移り工事請負人佐藤福太郎、丸山慶治、只野忠康、片寄小彌太の四氏それ〲表彰を受け佐藤福太郎氏表彰者を代表して答辭を述べ知事祝辭を井上屬朗讀、來賓の祝辭赤津同校長の謝辭あつて正午閉式、別室に於て祝宴を開き一時散會した

殘り少なになつた 松ヶ岡の櫻 辛じて名殘を止める あすは組頭大會

平町松ヶ岡公園の櫻も十日には八方通り散り葉櫻となつたので折角、明十五日の縣下消防組頭園遊會も花ぬきさなり極めて殺風景であるがしかし平消防組では花は散つても廣告燈は二十日までどりつけてゐるので多少の賑はひを見るものと豫想されてゐる今年の櫻は縣下一帶に十日以上早いが殊に平町の新川端櫻、松ヶ岡公園の櫻等は炭坑方面より流れる坑內放水や暖氣で非常な早咲きであつた關係から公園內の出店或ひは新川端の臨時賣店間もなく花が散つたゝめ人出が少く例年の三分の一も賣上げがなく全くこぼし切つてゐるが市內の各料理店等も殆ど豫想に反した收穫でこぼしてゐる

乾燥不良で 米が腐る 米檢所も苦心

石城地方に收穫後、乾燥不良から腐敗米が續出するに至つたこと既報したが最近米檢平支所に之れ等腐敗米の處分方を頻々問合せてゐるので安島支所長も殆ど閉口してゐるが右に就て同支所長は語る

腐敗米は鷄の餌の飼にもならない位だから結局は肥料にでもするより外に途はない、處が農家の人々は單に、後で乾燥すればよい位に考へて腐敗した俵米をそのまゝ腐敗した俵、共に俵內で[illegible]ので結局は良米までが腐敗する。俵の中で幾分でも腐敗した形跡が發見した場合は直ちにその部分だけを取除かず全部を外部に晒して乾燥するのが一番よいのだがそれを怠るから遂に取返しのつかない事になる云々

◁◁◁◁◁◁ 春は慘虐である 最近相次いで起る 石城の殺傷沙汰

石城地方には去る三月二十四日湯本町八仙に於て中島金太郎(四四)長男武雄(三二)が金太郎內縁の妻橋本なつ(四六)を斧を以て斬殺せんとした繼母殺し未遂事件發生以來去る十日內郷村字宮金取に於ける實妹殺し事件、續いて十一日江名町字中の作根室の甥殺し未遂等相ついで起る慘忍極まる血なまぐさい事件で人々を驚異せしめて居るがこれ等の

慘虐

な殺傷事件を靜かに考へればいづれも春の季節にわざはひされて居るものがあり、恰かも花が人を殺すかの如く考へられ戰慄禁じ得ざるものがある即ち湯本八仙における繼母殺し未遂事件もその主因は繼母のなつが長男武雄に對し暖かになり働けば働けるのになぜ働かぬと言つたことからで更にまた內郷村宮妹殺しは全くの花見遊びから江名町にたけるのら叔父の兇行も同じ樣なことが主因をなして居る、實に惱ましきは春であり、春は又慘虐である肉切庖丁で背後から柄も通れと突き刺し妹を

慘殺

した佐藤虎雄(二四)と出刃庖丁で甥重傷を負はせた坂部市藏(四五)の兩名は互に相似たる犯罪のもとに平署の同じ留置場に留め置かれ取調べを受けて居るのは皮肉である

怪我をして 違反 運轉手の不幸

石城郡高久村大字下高久當時浪江町菅野軍治方自動車運轉手箱崎甚平(三五)は十二日浪江牛渡鐵道踏切において急行列車と衝突し重傷を負つたが甚平はシボレー乙種免許者に拘らず當時運轉せるはクライスラー號であつた

老人の縊死 老弱を悲觀して

石城郡三坂村農酒井安太郎(五九)は去る一日頃から行方不明になつて居たが十二日朝自宅附近で縊死を遂げて居るのを發見した、原因は老弱を悲觀してらしい

沈滯の七濱に 大敷網の前景氣 近く一齊に投網

春の漁期に入つた石城地方の各濱は日增に活氣づいて來た殊に大敷網は二十五日豐間の投網を初め小名濱、植田、久の濱などの今月中旬までには投網を終るべく準備中であり且隣接の久の濱、豐間もの軋轢から問題視されてゐた四倉の角網も漸く認可され經營者岩手縣坂本嘉兵衛でも漁夫を督勵準備を急いでゐる漁は今のところ鰈、ヒラメその他小物に過ぎぬが昨年度の不況のと不漁に沈滯しきつてゐる際とて一際目立つた活況を呈してゐる

平署管內の 功勞消防組 金馬簾を允許

平署管內聯合消防春季檢閲は十六日行ふことゝなつたが當日功勞により金馬簾を允許される消防組は左の如し

平組、湯本組、好間組、平窪組、高久組、豊間組

死んで了ふと 覺悟の手紙 驚ろいて捜査願ひ

耶麻町檜平村寅八養子伊藤義壽(三三)は昨年十二月十五日知人の所に行くと稱して家出したまゝ行衛不明となつつたが最近義壽から若松市の友人緒方富四郎に宛てた手紙によると自殺をするから後のことは頼むと事が大いに驚ろいたが右手紙は內郷局の消印あり或は炭礦方面にゐるのではないかと十四日平署に捜査願ひを提出した

病毒酌婦が 就業禁止

平町南町飲食店つた屋こと加藤直三郎方酌婦千代木マル(二二)は前借三百六十圓に住み込んだところ病毒があるかどにより就業を停止されたので主人は青くなつてゐる

女工の家出 平署へ捜査願ひ

栃木縣羽賀郡水橋村酒井濟の從妹酒井フキ(一八)は郡山市日東紡績會社工場女工として働らいてゐるうち昨年十一月中逃走したが內郷村方面に潜伏してゐる形跡ありとて十四日平署に捜査願ひを出した

共濟病院の試み 無料檢查 血液の試驗

平町磐城共濟病院では難波院長外四博士打ち揃つて各地に巡回診療を試み豫期以上の好成績を收めてゐるが同病院が從來開設大いに實蹟を擧げてゐる衛生試驗所病氣相談所、救療所では明十五日、十六、十七の三日間血液の無料檢查デーとして一般に奉仕することゝなつた

無料で取扱ふ 健康相談と巡回看護 (上) 平郵便局

簡易保險局が被保險者の爲め健康相談所を設置して一切無料 健康相談や巡回看護・取扱つて居る其の事業の內容を十分に理解しない者が多いやうに思はれる

簡易保險 遞信省が大正五年に實施してから非常な發展をして現在では契約者數が千四百萬の大家族となり保險金額は十九億圓に達してゐる。其處でもとく國家が民衆、殊に大多數中產階級以下の相互救濟を計らうと云ふのが事業の使命なのだからた保險金を支拂ふと云ふばかりでなく被保險者の健康狀態を改善して本當の生活の幸福を御互が保つようにと云ふので所謂被保險者の福祉增進施設を行つてゐるのだが、簡易保險健康相談所はつまり此の施設の一つである。

我々は人生の幸福を味ふ爲に健康長壽がどれ程尊いものであるかはよく知つてゐる筈だ。そして病氣の恐ろしさも痛感して居る筈だたが、さて健康維持の爲に努力してどれだけの注意と努力を拂つてゐるであらうか

茲に火事もあるとしよう、若しそれが小火であつたら容易に揉み消す事も出來るが、一定の度を超ゐると鎮火は仲々容易な事ではない病氣も亦然りだ、最初のうちに撲滅さへすれば根絶する事も出來やうが重病になると治療が却々ならぬ困難を感ずる近來醫學會では治療醫學に對立して豫防醫學の重要性が認められ學者のこれに力を注ぐ樣になつたのは偶然でない。この豫防醫學の立場から見て最も重要な事は「健康診斷」である。我々は病氣にかゝつて居てもそれが輕病である時とか慢性疾患の場合は格別の苦痛が無いので往々氣が付かない場合が多い、又体質遺傳等から起きる病氣に對して豫め注意して全く必要である、斯ふした事は専門の醫者が精細な科學的診査を試みれば直ちに發見する事が出來るのだから、例令平素自分自身では壯健だと信じて居ても少くとも一年に一二回の健康診斷を受ける事は眞に健康の保持增進を心掛ける人に取つて忘れてならぬ事である。簡易保險の健康相談は此の豫防醫學の應用を目的とするものである事は勿論だ。

簡易保險健康相談所は大正十一年度に東京、名古屋、大阪、廣島、熊本、仙臺、札幌の各遞信局の所在地に始めて設置されたが我國に於て極めて嶄新な施設であつたが克く其の目的を達する事が出來たので順次被保險者の多數在住する地方に普及させる方針によつて其後毎年增設し現在では全國を通じ八十の都市に八十七ヶ所設置せられて居る。仙臺遞信局管內は、仙臺、新潟、山形、青森、福島、盛岡、長岡、若松、秋田、弘前、高田、郡山、米澤の十三ヶ所、相談所では簡易保險の被保險者の爲に健康相談と巡回看護の事務を取扱つて居るだが、其の利用者數は毎年增加の趨勢であり創如以來本年一月末迄の全國取扱件數の累計を示せば健康相談は一百三十萬二千五十五件巡回看護は二百四十五萬六千六百三十九件に及んで居る

此健康相談と云ふのはどんな事かと云ふと大体次の樣な事柄を取扱つて居る

イ、健康診斷に應じ病氣の有無を確かめ、疾病の豫防に就て適當な勸告なり指導を與へる
ロ、病氣に罹つてゐる者に對しては其の疾病の性質治療方法に就て詳しく指導を與へる
ハ、事情によつては處方箋も交付する
ニ、診斷書、健康證明書等を請求があれば交付する

平町にどうしても 公設の一六銀行 貧乏階級の輿論

平町內には數年前までは約二十軒の質屋があつたが質屋その[illegible]が不景氣のため相次いで廢業し現在では僅に六軒に減少してしまつたしかもその六軒も最近は不景氣のため質入れしても受け出す人がなく貸す一方では稼業にならず六軒のうち半分は休業して居るので無產階級者には一大打撃あり何とかして公益質庫を實現すべきであるとの聲が實際に必要な階級者からさけばれて來た

時言

縣下消防組頭大會、盛り澤山な此の議案に御目出度を願ひます、最時超々スピードの點に

□

緊縮して、首を縊つて貧乏人を殖やすかわりに施療所と公設質屋を殖やす事が現內閣の社會政策である相だ

□

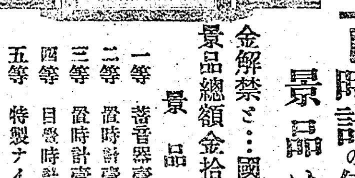
平町への公設質屋、もより容易であらうが、面目にかけてまで出かさねばならぬほど。町の名譽でない

□

櫻は早散れ、米は腐る出人が殖ねて殺傷事件頻發、何の罰當りか石城の春の惱み多い事よ

滋養劑の覇王
マルケイ ヴイタミンに限る
平五 山野滋藥局

乳酸菌飲料
ホシラクゲンの出現
絕對他社製類似品の追隨を許さず
胃腸の障害、下痢には偉效有り
朝の一杯は頭腦を明晰ならしめ
晝の一杯は活動の根源となり
夕の一杯は疲勞回復一家の和樂
來客へ奬むる一杯は歡樂の交響樂
大壜 一本(四合入) 一圓四拾錢
中壜 一本(二合入) 七拾五錢
試用ビン 一本 拾錢
平町三丁目(郵便局隣)
ホシチエーンストア
電話四二九

セイコー時計の値下斷行 景品は特賣

金解禁さ…國產品の愛用…
景品總額金拾貳萬圓
景品內譯
一等 蓄音器壹台 三百六十本
二等 置時計壹ケ 五百本
三等 置時計壹ケ 一千本
四等 目覺時計壹ケ 五千本
五等 特製ナイフ 全部へ
時計は信用ある精工舍製品を
特約店 平三 大谷時計病院 電話十九番

雨傘と日ガサ
流行の最先端
一九三〇年のパラソル
散歩がてら是非御覽下さい
電話一四〇番
ツルヤ
平町四丁目

亡母キサ葬送の際は御多忙中に拘らず態々御會葬被下成且つ過分の御香奠を賜り誠に有難く奉存候一々拜趨御禮申上可き筈なれど混雜中不致取乍略儀紙上を以て御厚禮申上候

昭和五年四月十四日

岡田千藏
外親戚一同